

事業名

春日は一つ、三つの輪

目 標

地域と学校の協働を通じて地域人材の積極的な活用を図ること

1. 取組の視点

各校園の課題克服に向けて、地域との協働した取組が効果的に反映するとした方針から、

- 地域人材を積極的に活用することで、学校も地域もより活性化させることができる。
- 各校園が、相互に横のつながりをもつことで子どもの発達段階を踏まえたかわりをもつことができる。

という2点について確認し、取組を推進することにしました。

2. 取組の概要

- 地域別懇談会の開催

「地域の子どもは地域で守る」を基に青少年の健全育成について、情報交換・話し合い・講演会を実施しました。



- 地域と協働したフェスタの開催

① 春日中学校を核とした「春日ふれあい文化祭」

自治連合会の主催で、2日間にわたって取り組む文化祭。初日は、吹奏楽部などのステージ発表を中心とした文化部の発表。地域住民や幼稚園児も訪れ、楽しいひとときを過ごしました。

2日目の午前には、地域の方々などをゲストティーチャーとした授業を公開しました。約50名のゲストティーチャーが30講座の授業を繰り広げました。



② 小学校を核とした「済美っ子祭り」、「大安寺フェスタ」、「済南ふれあい広場」

いずれも地域と学校・PTAが協力して企画・運営にあたる取組。普段の学校での学習を発表する場であるとともに、模擬店を出店したり、地域住民と子どもが交流し合う活動を行ったりするなど、地域コミュニティの拠点といった機能を持ち、地域力の向上を図っています。



3. 成果と課題

地域の方々にとっては、学校に対して貢献していただいている一方、子どもとのふれあいにいきがいを感じて喜びをもって受け入れられている取組となっています。しかし地域別懇談会やフェスタにおいて、参加者やボランティアの方々が固定化しつつあり、広報活動をより充実しなければならないです。

事業名

春日ステッププラン

目標

基礎学力の向上と規範意識の育成を図ること

1. 取組の視点

“荒れ”の状況を見せた31年前を機に「地域の子どもは地域で守る」を合い言葉として地域別懇談会を立ち上げるなど、地域と学校とが連携した取組を積極的に展開してきています。現在もなお、学校に対する支援態勢が整っており、本事業ではそれを基盤とした取組を推進しました。一方、大きな“荒れ”を見ることはなくなったものの、依然として残す課題として低学力傾向と規範意識の欠如が指摘されています。

2. 取組の概要

(1) 「わかるわかる学習会」の実施

概要；大学生を指導者として、3年生全員を対象に希望を募り、週2回（火・木）、放課後（16:30～18:00）行う学習会

内容；基礎学力の定着を図るために、マンツーマンによる個別指導「コツコツコース」（35名）と、自学を旨とし積極的に質問することで発展的な学習に取り組む「ドンドンコース」（11名）の2コースに分けました。



効果；普段の授業では学習意欲に欠ける態度を見せる生徒たちですが、目的意識をもって臨むことで、ひじょうによい雰囲気の中で集中した学習を続けることができました。また、このことが契機となって、普段の授業でもそれまでに比べて意欲的に取り組む姿を見せることになりました。



(2) “出前で部活”の実施

概要；生徒が保育園・幼稚園、福祉施設に出向き、普段取り組んでいる部活動を通じて、園児や利用者と交流する活動

意図；生徒の自己有用感を醸成する絶好の機会となりました。そのことが思春期の中学生にとって自己を見つめ直すこととなり、そのことで落ち着いた生活ができる精神的基盤が養われることをねらった取組です。



3. 成果と課題

わかるわかる学習会に参加した生徒は、普段の授業でも意欲的にとりくむようになりました。生徒の活動を仕組むことで、教師自身も地域との交流の機会を得ることになりました。しかし低学力傾向の生徒は、多数いて学生スタッフの人材確保が必要になっています。

事業名

奈良大好きせいびっ子

目標

済美・奈良の「もの・こと・人」に関わる学習活動を全学年で実施する。
心豊かな子どもを育てるため地域の教育力を活かすとともに、教育環境を整備する。

1. 取組の視点

世界遺産のある町「奈良」の「もの・こと・人」を題材に、様々な側面から調べたり触れたりする学習に全校で取り組みます。このような学習を全学年で積み重ねることにより、地域に誇りと愛着をもてるようにしたいと考えています。また、地域の方々の学校への関心は高く、協力的です。様々な学習活動や特別活動を地域の方の協力を得ながら進め、心豊かな子どもを育てたいです。

2. 取組の概要

○世界遺産学習の推進

1年生 「なかよしさんぽ」

学校、幼稚園、近くの公園等を散歩します。学校散歩では、学校のみならずなかよくなり、「わたしの学校」のよさをたくさん感じ取ることができました。

2年生 「わくわくさんぽ せいびの町」

互いに紹介し合った「せいびの町のすてきスポット」の中から「もっと知りたいところ」を散歩し、その人たちとふれあいながら、「見て・触って・やってみる」体験をさせていただきました。



3年生 「もっと知ろうよ 済美の町を」

『「おん祭」「校区の祭り」を調べて、市内の小学校と交流しよう』

「おん祭」や「校区のまつり（元興寺）（京終神社）（いさ川神社）」について調べ、市内の小学校とテレビ会議で交流し、学習したことを発信することができました。

4年生 「奈良公園の自然観察」

「奈良筆づくり体験」

「平城宮跡を守った棚田嘉十郎」

「奈良筆づくり体験」では、実際に作ってみることで奈良筆に対する愛着をもつとともに、職人さんの技術の高さやそれを長く受け継いできている奈良の人の思いについて考えました。

5年 「世界遺産見学」

「JR奈良駅舎を守った奈良の人たち」
「済美校区のお地蔵さんを調べよう」

本校区には多くのお地蔵さんがあり、どれもとても大切にされています。どのお地蔵さんも、きれいな花やお茶、お菓子が供えられていますが、それらは、各町の人たちが交代で世話をされていることが分かりました。

6年 「未来に残したい美しい奈良の風景を見つけよう」

奈良の観光名所として知られていた南都八景をもとに、未来に残したい美しい奈良の風景として「新南都八景」を地域の方や家の人などに協力してもらいながら選びました。

音楽 「わらべうたで遊ぼう」

図画工作 「世界遺産のある町の版画カレンダー」

家庭 「茶がゆ、奈良のっぺを作ろう」

○心豊かな子どもを育てるための取組

心豊かな子どもを育てるため、様々な学習支援、環境整備活動を地域の方の協力を得ながら進めました。

3. 成果と課題

世界遺産学習に全学年で取り組むことにより、96%の児童が済美や奈良の町が好きになったと答えました。芸術鑑賞会、講演会、環境整備活動等を保護者や地域の方の協力を得ながら実施でき、つながりを深めることができました。

事業名

大安寺っ子、地域で学び、つながろう！！

目 標

校区や地域におられる様々な方々との出会い・交流を通して学ぶことの大切さと人と人がつながり合う力を身につけさせる。

1. 取組の視点

本校では、「しっかり勉強する子」「みんなで支え合う子」「やさしくたくましい子」をめざす子ども像として教育活動を展開しています。

毎日、楽しく生き生きと学校生活を送っている子どもたちであるが、基本的な生活習慣や学習習慣の確立、自分の思いを正しく相手に伝える力の不足などの課題も残されています。

本校では以前から、子どものよりよい成長に向けて学校だけでなく、家庭・地域・学校が連携・協力しながら色々取り組んできました。今年度も本事業を有効活用し、さらに地域の方々との協力関係をより深めることで、校区の子どものよりよい成長を図ってまいります。

2. 取組の概要

ボランティアの方々の協力により、夏休みに6回の図書室開放や業間休みに図書室開放に協力したりしていただき、多くの児童が読書に親しむ機会が広がりました。また、児童の委員会活動にも参加し子どもと一緒に図書整理やカバーかけの作業をしていただくことができました。このような読書環境の整備活動など、日々の活動の積み重ねで、週1回の朝読書や「お話の会」の読み聞かせでも、集中して読んだりお話を聞いたりする児童の姿が多く見られるようになりました。



生活科や総合的な学習の時間を中心に、多くの「人」との関わりを大切にしながら、体験学習や出会いを通して交流を深めました。1年生と幼稚園との交流、2年生児童の、地域のお年寄りから全校児童をつなぐ子ども郵便局。3年生では、農家の暮らし・昔の暮らしを子どもたちが直接地域へ出向きカメラで記録したりインタビューしたりするなど、直接地域から学ぶことができました。全校平和集会では、6年生が学習してきたことを、全校児童・保護者・地域の方々など多くの人々に伝えることができました。これら多くの人の支え・協力があり実現することができた取り組みを今後も大切にしていきたいです。



3. 成果と課題

昨年度に引き続き地域の方々の積極的な支援で、子どもたちの学びも深まり、地域の方々との交流も自然な形で深めることができました。

今後は、協力体制の人的ネットワークの構築など、より強い連携体制を作るなど、十分な話し合いを重ね、今後も学校支援の柱として、地域の協力を得ながら事業を発展させていきたいです。



事業名

瞳きらきら言葉いきいき 心豊かな済南っ子

目標

「心で、言葉で、行動で人と繋がる」活動を通して

1. 取組の視点

本年度は、前年度の取組「言語活動の充実」「読書活動の充実」に加え、『自尊感情』を高める活動を目指しました。まず、学校の環境整備に力を入れました。さらに、地域の方との繋がりが深まるように各学年の取組を見直し、地域の方との「交流」や「ふれあい」に力を入れました。

2. 取組の概要

例をあげると、1・2年の活動では、民生児童委員の方々に協力していただき、昔遊びの活動を実施しました。児童は、丁寧に優しく教えてくださる地域の方々と楽しく話し、ふれあう中でコミュニケーション能力を身につけていったと思います。

5年生の「米作り」の取組では、田植えから稲刈りまで、地域の方の田んぼを借りたりして、多くの方と一緒に取り組みました。その、交流の締めくくり



には「お米料理フェスティバル」を開催し、地域の方を招待し

てお米料理を児童が作り食べてもらいました。地域の方が自分たちと一緒に活動し、共に収穫を喜ぶという経験を通し、自分たちの取組に大きな自信を持ちました。これが『自尊心』の向上に大きく影響したと言えます。

さらに、全校で地元にある「クレタケ」とタイアップして「絵手紙」を作成し、作品展を開く取組をした。1年生は1年生なりの味のある作品を作っており、自分の作品の良さや友だちの作品の

おもしろさに気がつくきっかけになりました。『自尊感情』を大きく向上させました。



地元産業である「クレタケ」とのタイアップは大きな効果を生むようになりました。3

年生が「クレタケ」の見学に行き墨作りの作業を目の当たりにしたり、全校で、「クレタケ」の筆や墨等を使いきれいな作品を作りました。それを、お世話になった地域の方にプレゼントしたり、全校絵手紙作品展を開いたり、「クレタケ」に飾ってもらったりして、「自尊心」の向上をめざしました。自分のことを大好きになり、人のことを大好きになる心を大きく成長させたと考えています。

3. 成果と課題

地域の方が学校環境整備や昔遊びやお米作り等で頻繁に学校に足を運んでいただいたことは、地域の方と子どもたちの距離が縮まって、子どもたちにとってとても良かったです。また、地元産業である「クレタケ」とのタイアップは、新しい出会いや地元産業の素晴らしさを味わえる良いきっかけになっていきました。

多くの方との関わりの中で言語活動の充実を図りました。しかし、普段の生活で友だちとの言葉のやりとりでまだまだ適切な言葉を使っていなかったりします。この現状から、取り組んで間もないことから、続けることによって徐々に課題を解決していけるのではないかと考えています。

事業名

幼稚園で一緒に遊ぼう、楽しいよ

目標

いろいろな感動体験を通して、元気いっぱいの心と体を育む

1. 取組の視点

園児・保護者・異年齢児・地域の方等様々な人たちと一緒に、感動体験ができる活動や環境を工夫し、つながりを大切にしながら、心も体も元気いっぱいの幼児に育つことを願い、以下の活動を計画し取り組みました。

2. 取組の概要

「未就園児親子登園（うさぎ組）」



今年度は、未就園児親子登園の回数を増やし、在園児と一緒に遊んだり、制作活動やリズム遊び・運

動遊び・絵本の読み聞かせをしたり、いろいろな体験ができるように計画しました。幼児同士のかかわりも見られ、保護者同士も互いに子育ての悩みを話すなどコミュニケーションをとる姿も見られるようになってきました。

「カプラで遊ぼう」

土曜参観日に地域の方やお家の方と一緒に、小学校の体育館でカプラ遊びをしました。園に



あるカプラだけでは足りないため、他市から借りて実施しました。思い思いの組み合わせを楽しんだり、高さ比べをしたりして遊びました。

「ふれあい広場」

今回のふれあい遊びは、親子・地域の方と一緒に輪投げや魚釣りをしたり、ダンボール迷路で遊んだり、地域の方から「びっくり箱」のおもちゃ作りを教えてくださいました。また、あやつり人



形劇「チュータとクッキー」「マリオネットの小さな作品集」を見ました。子どもたちは、ユニ

ークなストーリーと人形の動く姿に見入っていました。

「ならまちたんけん」

園の近くには世界遺産である元興寺をはじめ、数々の文化財があります。そのような素晴らしいところがあることに気づき、親しみをもち奈良を好きになって欲しいという願いから、園外保育「ならまちたんけん」に出かけています。今年度は、十念寺・元興寺・五重塔・誕生寺・庚申堂等

に出かけ、地域の方が説明をしてくださったり、安全・見守りをしてくださったりし



ました。保護者の方も一緒に参加され、奈良の良さを再発見したり、親子で語り合ったりする姿も見られるようになってきました。

3. 成果と課題

子どもたちは、保護者や地域の方々と一緒にいろいろな感動体験をしたことで、心も体も元気いっぱい育ちました。保護者の方からは、我が子の生き生きと活動する姿から子育ての喜びを味わい、地域の方々には、幼児教育の大切さや必要性を感じていただくことができました。今後も、地域の中での異年齢交流を活発に行い、地域ぐるみの子育て支援の充実に向けて取り組んでいきたいと思ひます。

事業名

広がれ！ふれあいの輪 大安寺幼稚園

目標

園児も保護者も地域の方々も心豊かに親しみ集う幼稚園づくり

1. 取組の視点

園児・保護者・未就園児・地域の方々等が共に、様々な感動体験をしながらふれあい、かかわりを深めたり、心弾ませて地域に親しんだりして、みんなが集う幼稚園を目指して計画し取り組みました。特に、親子でたくさんの絵本やお話に出会い親しむ体験、見たり聞いたり話したり五感で感じる体験、地域の方々や自然・文化財にふれ、興味や関心を深める体験、様々な人と一緒に遊ぶ楽しさを十分に味わう経験等を通して、心身共に健やかで心豊かな子どもに育つように保育内容を工夫しました。

2. 取組の概要

○「ふれあい広場カプラで遊ぼう会」

今年度は、カプラのワークショップを開き、カプラ遊びを親子で体験する機会をもちました。リズム室に、たくさんのカプラが配置されたのを見て、子どもも保護者もワクワクドキドキしながら、好きな形に積み上げていきました。また、みんなで部屋いっぱい広がった「街づくり」をしたり、



保護者が作った大きな「家」に入ったりして楽しく遊ぶことができました。最後に

カプラが一瞬に崩れていく「ナイアガラの滝」を見た時は、驚きと歓声が起り、カプラ遊びをして満足感を味わう体験となりました。

○「大安寺の昔話を聞こう」

地域の方が園に来られて、「大安寺の昔話」を聞かせていただきました。大安寺の地域には、昔から言い伝えられた話がいくつかあると聞

き、子どもたちも楽しみにしていました。「大安寺」や「お地蔵さん」などを描いた絵も見せても



らい、子どもたちは真剣に話に聞き入り、絵に見とれている様子が見られました。「毎日、通ってくる

道に、お地蔵さんがあるよ」「大安寺のお寺は知ってる」と話し、「今度、探してみよう」と興味や関心をもつことができました。

○「ひよこ組」と一緒に弁当を食べよう

未就園児親子登園「ひよこ組」と一緒に弁当を食べました。保育室に入ったひよこ組と保護者は、幼稚園の子どもたちが準備しながらてきぱきと動く様子を見て、「自分たちで全部できるんだね」と感心されていました。みんな

でおいしく弁当を食べながら、ふれあうことができ、来年の入園を楽しみにされる保護者の姿が見られました。



3. 成果と課題

子どもたちは、保護者・地域の方々・未就園児親子等と共に、様々な感動体験を積み重ねてきたことで、心弾む豊かな時間を過ごし、健やかに育つことができました。地域の温かなご支援をいただきながら、活動が充実し、保護者もいきいきと園生活をする子どもの姿を見て子育ての喜びを味わうことができました。今後も、豊かな感動体験を通して、地域の中で、みんなが親しみ集う園づくりをめざし、園活動の充実に向けて取り組んでいきたいと思ひます。